

# 常磐公園改修事業基本計画

常磐公園に関する市民アンケートについて

## 常磐公園改修事業基本計画とは

旭川市では、常磐公園周辺を文化芸術ゾーンと位置づけ、公園の緑の質と量を維持し、また周辺一帯の魅力を向上させることで、中心市街地の回遊性を高め、賑わいの再生を図るための整備方針を策定しました。これに基づき、常磐公園に関する整備方針を具現化するための「常磐公園改修事業基本計画」について現在検討しております。

計画の中では、『緑の計画』と『ゾーニング・動線計画』を二つの柱に図書館や公会堂周辺の整備や石狩川堤防付近の整備など「個別計画」について検討しております。今回は柱の一つである『緑の計画』づくりの参考に、市民の皆様から常磐公園に対するご意見をいただきたいと考えております。

## 基本計画の構成

### ①緑の計画 ～緑を守り育てる～

- 市民が常磐公園の緑に触れ、憩いと安らぎを感じることができるように、また、今の風景を将来へつなげていくために、50年、100年先の常磐公園の緑のあり方を考え、都市公園として質の高い緑の確保をめざしていきます。

### ②ゾーニング・動線計画

- 常磐公園を形成するゾーンを設定し、文化・芸術の回廊と位置づけるメイン動線や誰もが利用しやすく景観性に配慮した動線としていきます。

### ③個別計画

- 文化芸術ゾーン（7条緑道～河川空間）を結び回遊性を向上させる整備とします。
- 市民の文化・芸術活動を促す多目的広場の整備をしていきます。
- 公園及び周辺施設とのわかりやすいサイン計画の充実を図っていきます。
- 施設周辺区域の交通渋滞の緩和と新たな賑わい空間への展開を図っていきます。

### ④その他の計画

- 老朽化した施設の更新をしていきます。（安全で快適な施設サービスの提供）休憩施設（四阿、ベンチなど）、管理施設（照明）、便益施設（トイレ）、遊戯広場の遊具など

## 常磐公園の特徴

- 面積15.9haの総合公園
- 市内で最も古い歴史ある公園
- 市民の憩いの場
- 中心市街地の貴重なオープンスペース
- 日本の都市公園100選に選ばれた公園
- 周辺に多数の文化施設がある



## 公園樹木のあり方

不特定多数の人々が利用する「都市公園」は、人が入り込まない自然界とは異なり、倒木や枝折れなどの事故に利用者が巻き込まれないよう、安全を確保する必要があります。そのため、緑に親しみ憩いを感じられるよう、樹木自体の健全性が求められています。

### 公園の樹木の基準となる視点

安全

健全

自然形

『自然形』とは、樹木が適切な生育空間の中で順調に育ったときの樹形です。自然形ではない樹木は、枝が枯れるなど、衰退や老朽が早くなるため、順調に生長できる環境が必要です。

適正間隔で自然形に育った樹木



間隔が近く片枝、幹枯れ、斜めになった樹木



強風により折れた危険な樹木



## 常磐公園の樹木の現状

現在、常磐公園と常磐築堤には85種2651本の樹木があり、そのうち胸高直径10cm以上の樹木が約1800本あります。

公園内の樹木には開園前から自然に生えていたものもありますが、その多くは人の手で植えられてきたものです。植えられた当時は、早くに緑の量を増やすため、比較的、**生長の早い樹種**が好んで植えられました。しかし、**生長後の姿**を想定しながら十分な間隔をおいて植えられなかったため、樹木間の生育競争が起こり、その競争に負けて不健全に生長した樹木も多くあることがわかりました。また、そうした樹木の寿命は健全木と比べて短く、老朽化も早くなっております。

生育競争に負けた樹木は十分な日光が当たらず、体力が弱り、日光を求めて変形して育ち、枯れ枝が生じたり、病気などの致命的な生理障害を起こすこともあります。この様な、**生理的バランスの壊れた樹木**や**維持管理が困難な高さまで枯枝を生じてしまった樹木**などの処置が、今後の課題となっております。そのため、「自然形」の樹木を育てるための、適切な生育環境づくりと計画的な更新が必要となっております。



# 緑の計画（素案）概要

## ●目的

公園の重要な要素である樹木について、そのあり方と方向性を示し、緑の計画的な更新や適切な維持管理を行っていくための計画を作成します。

## テーマ 「緑を守り育てる」

以下の「基本的な4つの観点」から常磐公園の将来を考えていきます。

- ①安全性の観点から
- ②利便性、快適性の観点から
- ③景観の観点から
- ④生態系の観点から

以下の「樹種の選定と配置に関する8つの方針」に従い、将来に都市公園としての質の高い緑が確保されていくように緑の更新、維持管理を進めていきます。

- ①旭川として誇れる風景を創出するため、現況の樹種を土台に北海道や旭川市周辺の環境に適した多様な郷土樹種とします。（景観・生態系）
- ②四季を通じて楽しむことのできる花木、紅葉木、常緑樹など、開花・紅葉時期、さらには冬季にも配慮した樹種とします。（景観・生態系）
- ③生きものや景観に配慮した多様な樹種とすると共に、老朽や衰退の早い樹種だけでなく、森林としての寿命のバランスが上手くとれるような樹種とします。（安全性・景観・生態系）
- ④不要な密植を避け、日照や通風を良くし、植物が生長できる空間が確保できるような配置とします。（安全性・快適性）
- ⑤利用状況に合わせて、死角や暗がりがないような防犯面に配慮した配置とします。（安全性）
- ⑥現況の樹種構成を生かしながら、樹種に合わせた適正な樹木の間隔で配置します。（安全性・快適性）
- ⑦花粉、綿毛、日照障害など、近隣への影響や迷惑を与えないことを配慮した樹種や配置とします。（快適性）
- ⑧枯れ枝の処理などが困難な高木は、生態系や景観、管理面を考慮し、樹林のアクセントとして配置します。（安全性、景観、生態系）

公園開設時から今日まで、100年余りの長い時間の中で、公園内の樹木も日々生長し姿を変えてきました。次の100年を見据え、老朽化や病害など、あるいは周辺樹木に及ぼす影響などを総合的に判断し、問題を抱える樹木については伐採し、新しい樹木を計画的に植えることで、次の時代へ向けて緑の更新を図っていきます。

## ●今後の維持管理について

これまでの公園整備は、緑を増やすことを重点に生長の早い樹木を中心に植栽を進めてきましたが、近年、それらが更新時期を迎えつつあります。今後、樹木更新を考えるにあたり、適切な配置により樹木本来の姿を目指す方策を取り、維持管理についても、公園の現状や課題を的確に把握し、将来あるべき姿を予測・検討しながら、問題の発生を未然に防ぐ計画的な維持管理を進めてまいります。

そのため、現在も公園愛護協力会やボランティアの方々にご協力いただいておりますが、これまで以上に市民協働での維持管理を進め、行政と市民が一体となり、管理運営の質的向上を図っていきます。

## ゾーンごとの考え方

**公園の外周部**  
住宅地と接近するところは日照、害虫、危険性等に配慮  
例. 中低木や害虫のつきづらい樹種とする

**園路沿い**  
歩行者の安全性の確保と快適な利用  
例. 歩行者が楽しめる観賞価値に優れた樹種  
死角を作らない防犯面の配慮

**主要な緑地区域**  
多種多様な樹木の配置バランスを考慮した質の高い緑の創出  
例. 寿命が長く緑の骨格を造る樹種  
彩にあふれ観賞価値の優れた樹種  
適度な日当たりと健康的な芝生の確保

**遊具広場**  
子供たちの安全に配慮した植栽  
例. 死角や暗がりを作らない  
トゲのある樹種を避ける  
花や実をつける樹種を選ぶ

**多目的広場周辺**  
例. 現況の大きな樹木を活かした  
木陰のある広々とした空間



園路沿いに木陰をつくる樹木



台風で折れて堤防をふさぐ枯れ枝

**堤防付近**  
河川や公園の緑を繋ぐ空間として、生態系や景観、安全性などを考慮  
例：河川に近接した空間にふさわしい樹種  
生態系に配慮した郷土樹種  
かつての桜並木の復元



ワイヤーにより補強されている樹木



のびのびと育つ樹形の良い樹木



公園正門の樹木



色鮮やかな花々と千鳥ヶ池

**公園の入口部分**  
公園のシンボルとなる樹木の植栽  
例. 旭川周辺の郷土樹種で寿命が長く  
高木となる樹種

